

僧服に關する研究 (第13報) - 鎌倉時代の僧侶の肌着について -
 大阪女子短大 弓削公子

〔目的〕 鎌倉時代に、大陸より渡来した禅宗の僧衣の中で、臨済宗の礼装として着用されていった道具衣の内に、肌着用の衣類がどのような形で遺されていったのかを考察することを目的とした。

〔方法〕 京都市内の寺、京都国立博物館、井筒博物館、京都府立資料館、実物資料により調査研究を行った。

〔結果〕 外衣であり道具衣に比べ、寸法上もやや短かく、布地は服湿性のある生地を使用しており、形は他宗派のものより大型であり、公衆衣袋の一部に類似していると見出すことができた。